



日本初上映

Omah Njero

Ruang semayam para ego

消えゆく部屋

上映会と監督トーク
二〇二三年十月二十二日
午後五時〜七時
一、〇〇〇円 (コーヒー付き)



KEMENTERIAN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN - PUSAT PENGEMBANGAN PERFILMAN
PRODUCTION PATRNER EXPRESSA MEDIA PARIWARA PRODUCED BY PONOROGO INDEPENDENT FILM COMMUNITY

PRESENT "OMAH NJERO"

STARING AYA CHIKAMATZHU SHODIQ PRISTIWANTO KUKUH PRASETYO RETNO YUNITAWATI STHAPANUS AJIE K SUWANDI
SUPERVISION JUJUR PRANANTO CHAIRUN NISSA DANIEL RIFKI RIDLA AN-NUUR TONNY TRIMASANTO ARTURO GP Mentor SENO AJI JULIUS
PRODUCER & SCRIPT WRITER NURAZIZ WIDAYANTO DIRECTOR & EDITOR GELORA YUDHASWARA
DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY TRI ADI PRASETYO ASSISTANT DIRECTOR RIO W ALIANO ART DIRECTOR ABRINA SYAHYUDA WARDHANA
SOUND RECORDIST IMAM MUJIONO SOUND DESIGN PANDU MAULANA MUSIC SCORING YUSUF MAHARDIAN
COLOURIST YEHUDA ARIBOWO PRODUCTION ASSITANT NUGRAHA BIMANTARA

私たちの間にある
問題は遠いようで
それほど遠くない。

気仙沼と関係の深い
インドネシアからの
映像作家を囲んで。

上映会と監督トーク

2023年10月22日(日) 5:00~7:00

1,000円(監督が入れるインドネシアコーヒー付)

くるくる喫茶うつみ(気仙沼市八日町)

上映は5:00~
トークは上映後
5:40くらい~

ご予約先:
080-4357-7035
(門脇)



監督紹介

グローラ・ユダ・スワラ

東ジャワ・ポノロゴ生まれ。国営ラジオ局アナウンサーとしてキャリアをスタート。2012年、全額奨学金のオファーを受けて、国立ジョグジャカルタ芸術大学映画学科に入学。2016年より、大学に通うかたわら「コミュニティ・フィルム・ポノロゴ・インディエ」の活動にも参加、現在に至るまで精力的に映画製作や映画コミュニティの活動を行っている。場や家庭をテーマに製作された映画は、国内外の映画祭を通じて配給されている。映画コミュニティのみならず、ファインアートからパフォーマンスアートまで、ポノロゴのアート・コレクティブ・ムーブメントの中で、横断的な活動を積極的に行っている。パンデミックが発生し、ポノロゴの多くのアート活動が休止に追い込まれる中、2021年、アートなコーヒーショップというスタイルで、公共空間にアートシーンを創出。それが「セガウェ・コピー・スペダ」(自転車コーヒー屋台)だ。さまざまなコミュニティと協力し、アート企画やディスカッションなどアート活動のために公共空間を活用している。これはインドネシアならではのエコシステム(生態系)を復活させ、アートを活性化する共闘のためだ。「セガウェ・コピー・スペダ」は現在、ポノロゴのアーティストや若者たちのクリエイティブなアートの場となっている。

「たくさんインドネシアから来た若者たちが住んでいる町がある」と聞いて、気仙沼を訪れるようになったのが2018年のこと。それからいろいろな人と知り合いになり、毎月「インドネシア・カフェ」(2023年4月からは「アジア・カフェ」)を開くようになりました。そんな中でわかったのが、気仙沼に来ているインドネシア人の出身地で一番多くの若者を送り出しているのが東ジャワのポノロゴという町だということでした。2020年からはこのポノロゴと交流を開始。実習生たちの実家やトレーニングセンターを訪ね、2023年7月にはアート・プロジェクトも開催しました。

こうした中で知り合ったのが、ポノロゴの映像作家グローラさんです。グローラさんのおもしろいところは、自転車でコーヒーの道具を乗せて屋台を作り、アーティストや若者の集いの場を作り出すなど、モノだけでなく、関係性を作り出すことに軸足を置いていることです。そして気仙沼でこれとおなじような取り組みを行っているのが八日町の「くるくる喫茶うつみ」の吉川晃司さんです。

10月15日~22日の1週間、グローラさんを気仙沼に招き、「くるくる喫茶うつみ」さんで過ごしてもらい、その最終日として本上映会を開催します。グローラさんがインドネシアで向かい合う課題と気仙沼の課題とは、実は遠いようで近いものがあるのではないかと、というのが私の考えです。

映画紹介「消えゆく部屋」(2020年、インドネシア)

いつもは静かなベタリの家の朝が、今日は張り詰めた雰囲気。ジャカルタに働きに出ている兄バスコが帰郷するなり怒り出したからだ。父が重病だと連絡を受けて駆けつけたものの、父はいたって元気。だまされたと思ったバスコは怒りがおさまらない。そこで両親は子どもたちと「オマンジェロ」(家族会議)を開く。そこで明らかになったのは...?東ジャワで最も多くの出稼ぎを出す町ポノロゴ出身の映像作家が描くヒューマンドラマ。日本初上映。



つながる気仙沼プロジェクト

気仙沼と外国からのみなさんをつなぐ取り組みをしています!

主催 | NPO 法人地球対話ラボ

主催 | 一般社団法人まちとアート研究所

助成 | 公益財団法人トヨタ財団、一般財団法人YS市庭コミュニティ財団、宗教法人カトリック

中央協議会 カリタスジャパン、公益財団法人ノエビアグリーン財団

協力 | 気仙沼 YEG インドネシアフェスティバル、気仙沼インドネシア友好協会、LPK BNS、気仙沼商工会議所青年部、くるくる喫茶うつみ、アチェ・コミュニティアート財団、宮城学院大学永田貴聖研究室

※気仙沼 YEG インドネシアフェスティバルについてのお問い合わせは気仙沼商工会議所青年部までお願いします。

お問合せ・ご予約 | 080-4357-7035 (門脇)



詳しくはウェブや
SNSで!

